

今さら聞けない「パソコン用語」のおさらい

「ブラウザ」「プロバイダー」「LAN」「Wi-Fi」「ブルートゥース」「モデム」「ルーター」「USB」・・・大体知っているつもりでも、人から聞かれるとはつきり説明出来ない・・・そんなパソコン用語を、今一度おさらいしたいと思います。

「ブラウザ」とは、

インターネットを閲覧するためのソフトウェアのこと。英語で「ブラウズ (browse)」は、本や雑誌などをパラパラ開きながら「拾い読みする／閲覧する」という意味の動詞。

(カタカナ用語は、元の英語を知ることによって理解が進む場合があります)

最も有名なのは Internet Explorer (インターネット エクスプローラー)。略称 IE。Windows XP 以降のウィンドウズには必ず最初から無料でついてきたため、初心者の方には圧倒的に使われている。

Google Chrome (グーグルクロム)

「Google (グーグル)」が無料で提供する人気上昇中のブラウザ。2008年に登場。あとから機能を追加できるアプリや拡張機能が豊富。音声検索など新しい試みも導入。

Microsoft Edge(エッジ)

これまでの「Internet Explorer (IE)」に代わってWindows10に標準搭載されたブラウザ。動作が高速で軽いことをウリにしている。見た目がシンプル。

(どうしてもIEがいいという場合は「既定のブラウザ」を切替え可能)

「プロバイダー」

インターネット接続業者。正式呼称は「インターネット・サービス・プロバイダー」で「Internet Services Provider」の頭文字を取り「ISP」略される。(provide=供給する) OCN、ぷらら、BIGLOBE、@nifty、So-net、YahooBBなど

「LAN (Local Area Network) (ラン)」

家庭や会社でパソコンなどが通信回線でデータのやり取りをするネットワーク。

「有線LAN」は、パソコンとルーターをケーブルで接続してLANを構築する。「無線LAN」は、ケーブルの代わりに電波を使ってLANを構築する。

「ルーター」

ネットワークを接続するための中継機器。ルーターは「どのルートを通してデータを転送すべきか」を判断する「ルート選択機能」を持っています。そのため、道 (Route) を指示する者 (er) という意味で、「ルーター (Router)」と名付けられました。

複数の機器のデータの流れを整理して、ネット接続が円滑になるよう交通整理する装置。

「Wi-Fi」(ワイファイ)

「Wireless Fidelity」からの造語で「ワイファイ」と読む。「無線 LAN」のこと。

「Bluetooth (ブルートゥース)」

携帯情報機器や周辺機器向け『近距離』無線通信規格の名前。無線 LAN など使われている規格よりも『近距離』が対象で、10m以内といった身近な距離で使う機器を想定している。でも、なぜ「Bluetooth (青い歯)」なのか？

「モデム」

アナログ信号とデジタル信号を相互に変換する機械のこと。インターネットに接続する ADSL などの電話回線はアナログ信号、パソコンのデータはデジタル信号となっていて、そのままでは通信することができない。そこで、モデムによって信号を変換する必要がある。つまり、ADSL などの電話回線 (アナログ回線) で、インターネットと接続するには、必ずモデムが必要となります。

光回線の場合は、モデムの代わりに「光回線終端装置」というものを使います。

「Outlook (アウトルック)」

電子メールの送受信をメインの機能として、予定表、連絡先、仕事管理表など個人情報の総合管理もできるように作られたマイクロソフト社製のソフトウェア。

「Microsoft Office」が搭載されたパソコンには「Outlook」が最初からインストールされており、電子メールの送受信だけに「Outlook」を使う利用者も多い。

「YouTube (ユーチューブ)」

動画共有サービスで、アカウントを作成すれば誰でもオリジナルの動画を公開できます。そして公開された動画はネット経由で誰でも視聴や共有ができます。

2005年に立ち上げられた YouTube は 2006年 Google に買収された。

利用するときには著作権問題に注意が必要。著作権者から要請があれば削除するというルールがあり、実際、削除される違法動画も多い。

「SNS (social networking service)」

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。インターネットや携帯回線を通じてオンライン上で不特定多数の人が交流をはかるサイトの総称。ツイッター (Twitter) フェイスブック (Facebook) ミクシー (mixi) が 3大 SNS と言われている。

「Facebook (フェイスブック)」

世界 No.1 の SNS。実名で現実の知り合いとインターネット上でつながり、交流をするサービス。例えば、思ったことを共有する。撮った写真を共有して、友達に見せる。イベントの連絡を通知する、個人間でメッセージを送る……。これらを通じて友達間での交流が活発になる。政治の世界にも大きな影響を与えており、また様々な企業が Facebook で宣伝活動や、ビジネスをおこなっている。

「Mixi (ミクシイ)」

株式会社ミクシイが運営するソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) で、日本国内では最大の SNS。「mix (交流する)」と「i (人)」を組み合わせた造語。共通の仲間を見つけて、交友を深めることができる。

「ツイッター」

ツイートと呼ばれる 140 文字のメッセージから成り立つ SNS。短文で「いま、なにしている?」をつぶやく。英語の「tweet」は、元々「小鳥のさえずり声」といった意味。「Twitter」という語も、「小鳥がちゅんちゅん鳴く、さえずる」といった意味。

「ブログ」

ブログ (blog) の正式名は Web (インターネット) と Log (記録) を合せた Weblog ですが簡略化され 日本では「ブログ」と呼ばれています。

ブログはホームページ (ウェブサイト) の一種であり 「日記風ホームページ」と呼ばれています。日記のように 日付毎にデータ (記事) を入力し 入力されたデータ (記事) は、自動的に時系列で保存され表示されます。

「USB (Universal Serial Bus)」

パソコンに周辺機器を接続する規格のひとつで、キーボードやマウスといった基本的な入力装置や各種のディスクドライブ、プリンタなど、幅広い分野の周辺機器が接続されます。

パソコン本体の電源を入れている最中でもケーブルを抜き差しできること (ホットプラグ)、機器の動作に必要な電源をパソコンから得られること、さらに USB ハブを介して多数の機器を接続できることなどの利点があります。初心者の方にも使いやすいデバイスとして、ほとんどのパソコンに搭載されています。

USBメモリとは、パソコンなどの USB 端子に差し込んで使用する、フラッシュメモリを内蔵した小型の外部記憶装置。着脱・持ち運びが容易な記憶メディアとして、パソコンなどの情報機器間のデータの移動によく用いられている。

一般的な USB メモリは親指ほどのサイズの箱型や棒状の機器の先端部が USB コネクタとなっており、パソコンなどの USB コネクタに差し込むとハードディスクなどと同じように記憶装置として読み書きできるようになる。

「ホームページ」

当初はブラウザを起動した時に最初に表示するよう設定されたページのことをホームページと呼んでいたが、次第にサイトのトップページのことにもホームページと呼ぶようになり、さらに Web サイト全体のことや、トップページだけでなくあらゆる Web ページをホームページと呼ぶようになった。

「ホームページ」「Web ページ」「Web サイト」、正式にはそれぞれ意味合いが少し違いますが、現在では全てを「ホームページ」と呼んでしまっているようです。